

## 横浜港港湾計画改訂の検討状況（中間報告）について

次期改訂は、目標年次を平成30年代後半とし、その計画内容について、横浜市民、港湾関係者、学識経験者、関係行政機関等で構成する「横浜港港湾計画検討部会」の意見を参考にしながら検討を進めています。

### 1 コンテナ取扱量の目標値

| 現状（平成24年速報値） | 目標値（平成30年代後半） | 過去最高（平成20年） |
|--------------|---------------|-------------|
| 305万 TEU     | 430～520万 TEU  | 348万 TEU    |

（目標値は概算であり京浜三港で精査・調整中）

### 2 個別計画の概要

#### （1）コンテナ取扱機能の強化

基幹航路をはじめとするコンテナ船の大型化や、貨物量の増加に対応し、コンテナ取扱機能を強化します。加えて、新規ふ頭にコンテナターミナル計画を検討します。

#### （2）新規開発空間の検討

##### ア) 新規ふ頭の目的

コンテナ取扱機能の強化に加え、コンテナターミナルと一体となって機能する臨海部物流拠点を形成します。また、公共建設発生土を受け入れることで、今後の都市基盤整備を長期的・安定的に支えます。

##### イ) 候補地の選定

航行船舶の安全性や経済性、将来の拡張性から、本牧沖を候補地として検討します。

#### （3）在来埠頭の再編強化

在来貨物を効率的に取扱えるよう岸壁の配置を見直します。特に、完成自動車の取扱機能を強化するため、既存岸壁の利用転換を検討します。

#### （4）臨海部の道路体系の強化

埠頭間の交通を円滑に処理するため、臨港道路の計画を見直します。

#### （5）臨海部における賑わい創出

美しい水辺の景観、水域などを活かし、横浜の魅力を向上させるため、水際線緑地の整備や水域の利用を検討します。

#### （6）埠頭の再開発

##### ア) 山下ふ頭

昨年度実施した「山下ふ頭土地利用構想検討懇談会」の結果を踏まえ、段階的な整備も視野に入れつつ、埠頭用地から都市機能への土地利用転換や山下公園との連続性を考慮した緑地の配置等を中心とした土地利用計画をまとめていきます。

イ) 新山下地区

山下ふ頭の土地利用を踏まえて、前面水域の利用も含め、物流を主体とした土地利用の可能性について検討を進めます。

(7) 客船寄港の促進

クルーズ人口の増加や船舶の大型化に対応するため、客船の受入機能を強化します。特に、超大型客船については、多目的岸壁の位置付けを検討します。

(8) 防災機能の強化

ア) 震災対策

緊急物資、復旧資材等の受入れや、国際海上コンテナ物流の機能を維持する耐震強化岸壁について、取扱機能を強化します。

イ) 津波対策

防護レベルの津波について、策定が予定される海岸保全基本計画の中で検討します。

(9) 水域の適正な利用

船舶の入出港や港湾の開発・維持を支援する船舶について適切な配置を計画します。

(10) 環境保全への取組

美しいみなとづくりに向けて、水質改善や温暖化対策などの取組や良好な景観の確保などを進めていきます。

3 今後の予定

今年度も引き続き、検討部会でご意見をいただきながら検討を進め、9月頃を目途に素案をまとめた上でパブリックコメントを実施します。その後、原案を作成し、改訂の手続きを進めます。

